

11月8日 全校朝会（ミーティング）



香りの道 ～桜野小のシンボルツリー 桂の木～

昨日は11月7日、立冬でした。立冬とは冬の始まりを表す季節の言葉です。朝晩の気温が下がり、木の葉が紅や黄色に色付き、落ち葉も増えてきましたね。

さて、桜野小学校や学区域には桜の木が多く、桜は学校のシンボルツリーにもなっていますが、桜野小学校には、シンボルツリーと言える木が他にもあるのを知っていますか。それは、ビオトープと校舎の間にある桂の木です。桜野小学校の初代校長の山口みちこ先生が、『秋になると木の葉が黄色になり、とても美しい木です。』と教えてくださったのをこの季節になるといつも思い出します。その桂の木の葉が黄色く色付き散り始めました。

この桂の木にはもう一つ特徴があります。それは、枯れ葉に甘い香りがあることです。「キャラメルの香り」とも、「砂糖じょう油の香り」とも、「カルメ焼きの香り」とも言われていますが、私は「カルメ焼きの香り」が1番近いように思います。この香りは、枯れ葉に含まれるマルトールという成分のためだそうです。

この香りが楽しめるのは、葉が黄色くなり落ち葉となる今の季節です。朝、登校するみなさんが、落ち葉を踏みしめて歩くと、その辺り一面に甘い香りが漂いますし、よく乾燥した葉を手にとって鼻に近付けると、甘くいい香りがしてホッとします。私は、この場所がとても気に入っていて、「香りの道」と名前を付けて、いつもこの香りを楽しんでいます。雨上がりの朝は、特に香りを強く感じます。

これは、今朝、拾った葉ですが、そばに置いておくとマスクの上からでも甘い香りを感じます。昨日の雨で濡れたため香りが強くなっているのでしょう。

昔からこの香りは、多くの人を楽しませていて、桂の木は、香りの木と書いて、コウノキと呼ばれたり、その香りからショウユノキと呼ばれたりしています。桜野小学校の第二のシンボルツリーとして、みなさんにも覚えておいてほしいと思い、今日は桂の木のお話をしました。

葉はかなり落ちてしまいましたが、もうしばらくは楽しめそうです。みなさんも桂の木の下で香りを感じてみてください、